

おおたま

2020

No. 119

令和2年11月発行



遠心力に負けないぞー!!

大山小運動会・学習発表会 10月18日(日)

運動会と学習発表会が秋晴れのもと校庭で行われました。地域の方々やPTAの皆さんの協力によりできあがったステージでは、4年生の神原田神社十二神楽や合唱部の歌声が披露されました。



大玉村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

9月定例会開催 P2～P9

令和元年度一般会計など8会計の決算を認定
決算審査特別委員会 質疑と意見
意見書3件を提出

一般質問

ここが聞きたい! 7人の議員が登壇... P10～P16

地域課題に取り組む P17

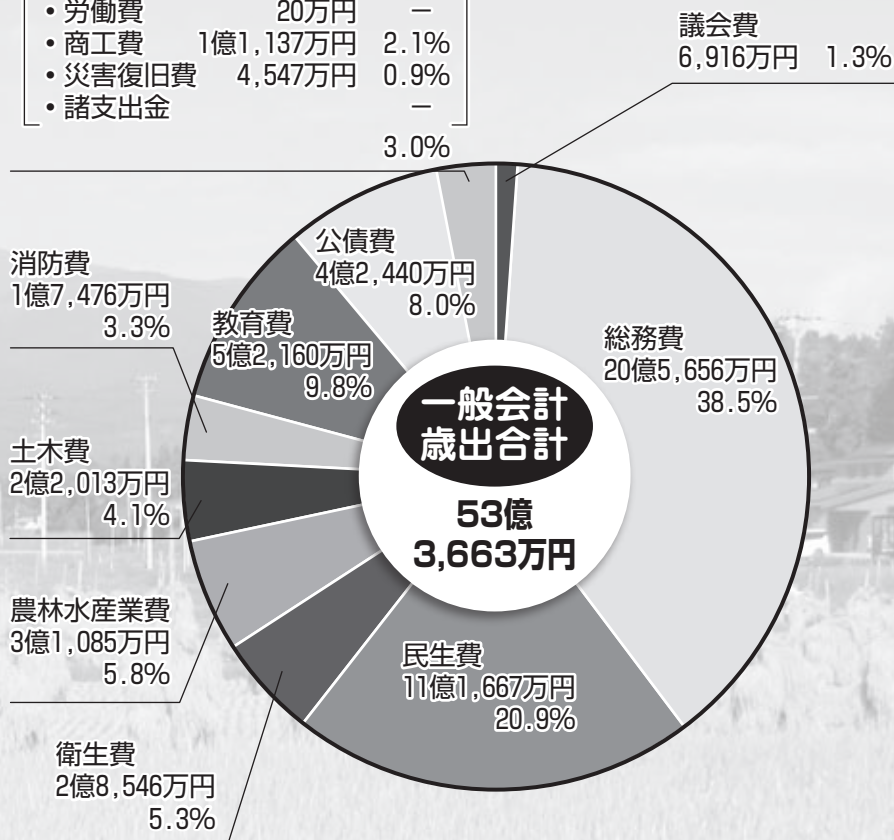
目指せ!! 健康長寿日本一おおたま P18

村に向けた健康増進事業など

前年度より2億3,311万円増↑

※その他

・労働費	20万円	—
・商工費	1億1,137万円	2.1%
・災害復旧費	4,547万円	0.9%
・諸支出金	—	—



衛生費

●大玉村健康増進計画等策定	369万円
●健康長寿推進事業	319万円
●各種予防接種実施事業	3,209万円
●広域行政組合衛生費負担金	1億2,407万円

農林水産業費

●農業機械等共同利用整備事業補助	1,208万円
●中山間地域等直接支払制度	4,570万円
●多面的機能支払交付金事業	870万円
●有害鳥獣被害防止対策事業	320万円

商工費

●商工業振興事業	3,293万円
●観光振興事業	1,643万円
●ふるさと納税事業	873万円
●アットホームおおたま改修	2,515万円

土木費

●土砂災害ハザードマップ作成	629万円
●道路維持管理事業	4,731万円
●道路等側溝堆積物撤去事業	5,562万円
●橋梁維持管理事業	3,058万円

消防費

●広域行政組合消防費負担金	1億2,641万円
●消防団活動事業	2,293万円
●消防施設整備事業	2,542万円

教育費

●スクールバス運行事業	1,224万円
●地域学校協働活動事業	500万円
●文化財保護事業	734万円

9月定例会開催

9月定例会は、8日から17日までの10日間の会期で開かれました。内容は、村長提出案件23件（条例改正2件、決算認定8件、補正予算8件、契約案件2件、人事案件1件、報告2件）及び議員発議3件、合わせて26件が提出され、審議した結果、原案どおり可決・認定しました。なお、令和元年度一般会計など8会計の決算については、決算審査特別委員会を設置して審査しました。また、請願が1件、陳情が3件提出され、審査の結果は8、9ページのとおりです。

令和元年度一般会計決算

健康長寿の

歳出

53億3,663万円を認定

※その他（自主財源）

・分担金及び負担金	0.3%
・使用料及び手数料	0.7%
・財産収入	0.4%
・寄付金	0.3%
・諸収入	1.5%

3.2%

繰越金

4億2,988万円

7.5%

自主財源

23億8,253万円

41.5%

繰入金

8億799万円

14.1%

村税

9億6,051万円

16.7%

村債

1億8,980万円

3.3%

一般会計
歳入合計

57億

4,748万円

地方交付税

16億7,906万円

29.2%

依存財源

33億6,495万円

58.5%

県支出金

8億1,826万円

14.2%

国庫支出金

3億9,265万円

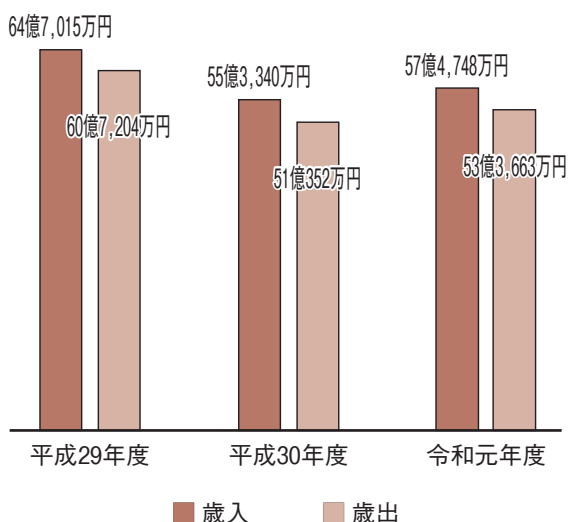
6.8%

※その他（依存財源）

・地方譲与税	1.3%
・利子割交付金	—
・配当割交付金	0.1%
・株式等譲渡所得割交付金	—
・地方消費税交付金	2.5%
・ゴルフ場利用税交付金	0.3%
・自動車取得税交付金	0.1%
・地方特例交付金	0.6%
・交通安全対策特別交付金	—
・環境性能割交付金	0.1%

5.0%

一般会計 歳入歳出決算の推移



総務費

- 公共交通運行補助事業 1,251万円
(広域生活バス、デマンドタクシー)
- 定住促進住宅団地造成事業交付金 1,300万円
- 線量低減化事業 3億7,596万円
- 応急仮設住宅撤去事業 1億1,104万円
- 台湾交流事業 578万円

民生費

- 社会福祉協議会活動支援事業 1億3,719万円
- 国民健康保険特別会計繰出金 8,128万円
- 大玉村プレミアム付商品券発行 554万円
- 児童手当支給事業 1億6,592万円
- 子育て支援医療費等助成 5,558万円

令和元年度 決算額

決算を読み解く

財政指標は「健全」

会 計 名	歳 入	歳 入 対 前年度比%	歳 出	歳 出 対 前年度比%
一般会計	57億4,748万円	103.9	53億3,663万円	104.6
国民健康保険特別会計	9億9,029万円	99.7	9億4,073万円	101.0
玉井財産区特別会計	1,142万円	86.3	854万円	134.3
農業集落排水事業特別会計	1億1,801万円	93.7	1億1,432万円	94.7
土地取得特別会計	3,237万円	306.0	3,237万円	306.0
介護保険 特別会計	【保険事業勘定】	7億3,529万円	7億1,749万円	103.1
	【介護サービス事業勘定】	228万円	171万円	148.7
後期高齢者医療特別会計	6,803万円	102.4	6,731万円	102.8
水道事業 会 計	【収益的収支】	1億6,597万円	1億4,845万円	93.9
	【資本的収支】	6,071万円	1億4,238万円	80.6

将来負担比率

元年度	2.5%
30年度	12.7%

税金や交付税など毎年決まって入るお金に対して、将来、負担となる村の公債（借金）などの債務負担がどの程度の割合になるかを示す指標。350%を超えると、財政再生計画を策定する必要がある。

実質公債費比率

元年度	7.4%
30年度	6.9%

村の実質的な公債（借金）が税金や交付金などの収入に対してどの程度あるかを示す指標。数値が高いほど返済の負担が大きい。18%を超えると公債を発行する際に総務大臣または知事の許可が必要となる。

財政力指数

元年度	0.387
30年度	0.379

村の標準的な支出に対し、村が自主的に集められるお金（税金など）がどの程度あるかを示す指標。指数が高いほど自主財源の割合が高く、数値が1を超える場合、100%自主的な収入で運営できることになる。

経常収支比率

元年度	87.9%
30年度	88.6%

税金や交付税など毎年決まって入るお金に対し、職員の給料などの毎年決まって出るお金の割合を示す指標。100%になると、自由に使えるお金はゼロになる。昨年度大玉村が自由に使えるお金は12.1%となる。

決算審査意見書

地方税の確保および経常経費の削減を

代表監査委員 甲野藤 健一
議会選出監査委員 鈴木 康広

令和元年度の決算審査を8月17日から21日まで日程で行いました。審査意見については、次のとおりです。

審査意見 （一般会計・特別会計）

令和元年度決算は良好であった。昨今の社会情勢を踏まえた行政執行が今後必要である。財源の確保と経常経費の削減に努め、行政運営に万全を期すことを望む。

審査意見 （水道事業会計）

損益計算書中、営業利益△276万275円、経常利益835万7526円である。一方、供給単価（166・4円）が給水単価（193・2円）より下回る状況にある。これらの改善に努められたい。

令和元年度予算執行に関する事務処理については、毎月実施している例月出納検査及び2月に実施した定期監査において審査しており、指摘事項、改善事項はその都度指導を行った。特に、次の事項を付して決算審査の意見とする。

新型コロナウイルス感

令和元年度決算を審査 ～決算審査特別委員会～

令和元年度一般会計、特別会計など8会計の
決算議案を次の通り審査しました。

9/8

本会議

- ・議案の一括上程
- ・決算審査報告（監査委員）

9/11

本会議

- ・総括質疑
- ・決算審査特別委員会の設置

決算審査 特別委員会

- ・総務文教分科会・産業厚生分
科会の2分科会を設置

9/14,15

総務文教分科会 産業厚生分科会

- ・決算審査

9/16

決算審査 特別委員会

- ・分科会の審査報告
- ・決算審査特別委員会の審査結
果を集約

9/17

本会議

- ・決算審査特別委員会の審査結
果報告
- ・議案審議

分科会質疑

ピックアップ

分科会では多くの質疑がありました。その中から、いく
つかをお知らせします。

総務文教分科会



（9月14日）

庁舎建て替え

総務課

問

庁舎建設基金が公共施設整備
基金に変更となったが、今後
の庁舎建て替えの考えは。

答

役場だけでなく他の老朽化
している公共施設にも使える
ように基金を変更したもので
ある。庁舎の建て替えには25
億円以上かかるとみている。



政策推進課

地域おこし協力隊

問

SNS情報発信を担う地域おこし協力隊を募
集したが、採用に至っていない状況を踏まえ、
今年度はどのように行っていくのか。

答

2名の応募があったが时期的な問題などでう
まくマッチングしなかった。今後はできるだけ
柔軟に対応し、採用を模索していきたい。

マチュピチュ交流

問

マチュピチュ村長が変わった。今後の交流の
見通しは。

答

交流事業は一時中断となっている。コロナが
落ち着いてから、通常の交流ができればと思っ
ている。現在は野内与吉氏の功績を調べ、顕彰
しようということで顕彰会の立ち上げを行って
いる。



野内与吉顕彰会の設立総会（9月25日）

教育総務課

スクールソーシャルワーカー

問 スクールソーシャルワーカーのさらなる効果的な活用は検討しているか。

答 相談内容はさまざまだが、学校ごとにこまめに連絡をし、より効果的な活用をしていきたい。

生涯学習課

おおたま学

問 ウェブ版「おおたま学」の活用状況は。

答 小中学校の授業で活用している。冊子の「おおたま学」は今年度刊行し、配布する。



誰も見られるウェブ版「おおたま学」を

産業厚生分科会



住民生活課

土のうの確保

問 昨年は大規模な台風被害があった。今後の冠水などに備えた土のうの準備はできているか。

答 常時、400袋程度は準備している。

健康福祉課

緊急通報システム

問 緊急通報システムの内容と利用状況は。

答 緊急通報システムを提供している会社と直接連絡が行くようになっていて。現在、4名の一人暮らし高齢者の方が利用している。

産業課

ふるさと納税

問 利用したい方は多いと思うが、広く周知はしているのか。

答 今後どこまで周知するか検討したい。

問 ふるさと納税の件数が減ってきている。今後の取り組みは。

答 先進地の取り組み事例を参考にし、作物生産者の紹介を行うなど、工夫していきたい。



建設課

道路側溝等堆積物除去

問 道路側溝等堆積物除去事業では、住民からの要望は受けていたのか。

答 事前に区長から承諾をいただいた箇所に加え、要望による追加箇所も除去を行った。

決算審査特別委員会の意見

令和元年度決算議案についての審査意見は次のとおりです。



総務部

- ① 従来の職員研修に加え、こおりやま広域圏に係る研修も増えており、職員の資質向上に繋がっているものと思われるため、今後も引き続き、自己研さんに努め、住民の福祉の増進を図りたい。
- ② 選挙管理委員補充員制度について、課題把握と適切な解決策を検討されたい。
- ③ SNS等情報発信を担う地域おこし協力隊の採用について、柔軟に対応し、できる限り早期に採用されるよう努力願う。
- ④ 村税の徴収について、納税者間の公平性を保つとともに、財源確保に努められたい。

教育部

- ① スクールソーシャルワーカーの各校毎の相談件数等を把握し、更に効果的な活用が図られるよう努められたい。
- ② 学校支援地域本部の登録ボランティアの多くの方々に協力いただけるよう、引き続き、依頼の仕方等工夫されたい。
- ③ 「おおたま生き粋大学」と「おおたま大学院」について、対象者と目的を明確にし、両方の参加者が増加するよう努められたい。

住民福祉部

- ① 自然災害が多発している現状を踏まえ、緊急時に対応できる消防団員の確保について、行政・消防団・地域住民との連携を密にし、新規団員の確保を図ること。
- ② 第8期介護保険事業計画策定に向け、介護実態調査が実施された。調査結果を活かした高齢者一人暮らし等への対応や、特定検診の充実、人間ドックの対象年齢の延長等に取り組まれたい。
- ③ 年々増加するゴミ処分量の低減のため、転入者への分別説明の徹底や、学校での子ども達への啓発活動を進めること。

産業建設部

- ① 中山間地域等直接支払交付金事業の広域化に向け、関係機関と連携し取り組むこと。
- ② 近年増加傾向にある自然災害に対し、迅速・的確に対応できるよう努めること。
- ③ 農地改良と称した残土処分等の行為がみられるため、住民の安心安全を重視し、農地法を遵守した指導の徹底を行うこと。

令和2年度 8月補正予算 議案第50号

会 計 名	補 正 額	総 額
一般会計	1億6,372万円	56億332万円

※議案第49号 一般会計補正予算専決処分（7月補正）の補正額は1億1,855万円です。

令和2年度 9月補正予算

会 計 名	補 正 額	総 額
一般会計	4億2,995万円	60億3,327万円
国民健康保険特別会計	2,627万円	9億2,187万円
玉井財産区特別会計	188万円	693万円
農業集落排水事業特別会計	369万円	1億2,802万円
土地取得特別会計	708万円	1,150万円
介護保険特別会計	【保険事業勘定】 1,731万円	7億7,028万円
	【介護サービス事業勘定】 47万円	73万円
後期高齢者医療特別会計	104万円	7,357万円
水道事業会計	【収益的支出】 —	1億6,524万円
	【資本的支出】 260万円	1億3,977万円

※水道事業会計【収益的支出】は、歳入歳出予算額を調整し、予算総額を変更しない補正である。

人事案件

教育委員会委員の同意

現委員の高島由美子氏（大山字上ノ台）の再任について同意しました。任期は、令和2年10月20日から令和6年10月19日までの4年間です。

8月臨時会 議決結果

議案番号	議 案 名	結 果
議案第49号	令和2年度大玉村一般会計補正予算の専決処分の承認を求めることについて	原案可決
議案第50号	令和2年度大玉村一般会計補正予算について	原案可決
議案第51号	令和2年度スクールバス購入事業売買契約について	原案可決

9月定例会 議決結果

議案番号	議 案 名	結 果
議案第52号	大玉村監査委員条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第53号	大玉村水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第54号	令和元年度大玉村一般会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第55号	令和元年度大玉村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第56号	令和元年度大玉村玉井財産区特別会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第57号	令和元年度大玉村農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第58号	令和元年度大玉村土地取得特別会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第59号	令和元年度大玉村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第60号	令和元年度大玉村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第61号	令和元年度大玉村水道事業会計歳入歳出決算認定について	認 定
議案第62号	令和2年度大玉村一般会計補正予算について	原案可決
議案第63号	令和2年度大玉村国民健康保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第64号	令和2年度大玉村玉井財産区特別会計補正予算について	原案可決
議案第65号	令和2年度大玉村農業集落排水事業特別会計補正予算について	原案可決
議案第66号	令和2年度大玉村土地取得特別会計補正予算について	原案可決
議案第67号	令和2年度大玉村介護保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第68号	令和2年度大玉村後期高齢者医療特別会計補正予算について	原案可決
議案第69号	令和2年度大玉村水道事業会計補正予算について	原案可決
議案第70号	令和2年度宮下・高久線（外）道路改良舗装工事請負契約について	原案可決
議案第71号	大玉村立小中学校学習用タブレット端末購入事業売買契約について	原案可決
議案第72号	大玉村教育委員会委員の任命について	同 意
議員発議第3号	『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書について	原案可決
議員発議第4号	東京電力福島第一原発事故により発生した汚染水の海洋放出に反対する意見書について	原案可決
議員発議第5号	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書について	原案可決

9月定例会に提出された請願

件 名	提 出 者	紹介議員	付託委員会	審査結果
「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	福島市上浜町 福島県教職員組合 中央執行委員長 國分 俊樹 ほか1名	武田 悦子	総務文教	採 択

9月定例会に提出された陳情

件 名	提 出 者	付託委員会	審査結果
東京電力福島第一原子力発電所事故で発生した放射能汚染水（アルプス処理水）の海洋放出に反対する意見書の提出について	福島市野田町 DAPPE(平和と平等を守る民主主義アクション) 代表 久保田 亮	産業厚生	採 択
東京電力福島第一原発事故により発生した汚染水の海洋放出に反対する陳情書	二本松市油井 安達地方農民連 会長 佐藤 佐一	産業厚生	採 択
新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書の提出について	福島市中町 福島県町村議会議長会 会長 渡邊 一夫	総務文教	採 択

議員発議

意見書3件を提出

意 見 書	提 出 先
令和2年度及び復興・創生期間後も国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書	復興大臣、文部科学大臣、総務大臣、財務大臣
東京電力福島第一原発事故により発生した汚染水の海洋放出に反対する意見書	内閣総理大臣、環境大臣、文部科学大臣、農林水産大臣
新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書	衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、経済再生担当大臣、厚生労働大臣、財務大臣、経済産業大臣、まち・ひと・しごと創生担当大臣



9月定例会では、9月10日に7人の議員が一般質問を行いました。質問と答弁を要約した内容は、質問順に10ページから16ページです。

わたなべ けいこ 渡邊 啓子	1. 高齢者支援の現状と今後の対策は 2. 村道宮前石山線の拡幅工事について	10ページ
さいとう しんいち 斎藤 信一	1. 大山幼稚園園庭について 2. 大玉村子ども・子育て会議について	11ページ
おしやま よしのり 押山 義則	1. 大玉村保育所民営化計画を質す	12ページ
すどう ぐんぞう 須藤 軍蔵	1. 財政の見通しと村政の基本姿勢を伺う	13ページ
たけだ えつこ 武田 悦子	1. 大玉村保育所の民間運営 2. 新型コロナウイルスから暮らしを守る対策は	14ページ
さわら さゆり 佐原佐百合	1. 村が目指す自主防災組織とは 2. 誰にでもわかる「予算説明書」の作成を	15ページ
きくち あつのり 菊地 厚徳	1. 循環型農業を堆肥センターで考える 2. 集中豪雨の被害と河川の管理状況は	16ページ

※一般質問とは…議員が村の行財政全般にわたって、村に対し、説明を求めまたは所信をたずねること。
大玉村議会の一般質問の時間は、一人30分以内で、答弁時間は含まない。

ここが聞きたい!!
7人の議員が登壇
一般質問



高齢者支援の現状と今後の対策は

質問趣旨

本村では健康長寿の村づくりを進めているが、高齢化が進めば介護のニーズが増加し、担い手不足が懸念される。

渡邊 本村の高齢化率の現状と今後の見通しは。

健康福祉課長 4月1日現在の高齢化率は26・7%である。今後も高齢化は進むと予想している。

渡邊 要介護要支援認定者数の現状と今後の推計を伺う。

健康福祉課長 7月末現在で378名であり、令和22年度には428名に上ると推計している。

渡邊 厚生労働省の2025年度介護職員充足率の推計では、福島県が全国最下位となった。介護の担い手確保をどう考えるか伺う。

住民福祉部長 県社会福祉協議会などが実施するセミナーや講習会など、広報や周知を図っていききたい。

渡邊 平成8年に安達管内の7市町村が協力し設立した福島介護福祉専門学校の入学者数が減少している。村として、できることはないか。

住民福祉部長 毎年、村広報紙に入学者募集の掲載をし、支援に努めている。

渡邊 同校では出前講座や学校見学を歓迎している。本村の小中学校でも取り入れてはどうか。

教育長 取り入れることが可能かどうか、各学校に働きかけをしていきたい。

渡邊 近年、介護疲れによる事件が増えている。介護をする方の疲弊を防ぐ対策は。

住民福祉部長 身体的精神的負担を軽減するため、「介護者のつどい」を年4回実施している。

渡邊 深刻化する高齢者問題をどのように考えるか。

村長 足の確保や介護も含めて、しっかりと高齢者支援対策を行っていききたい。

村道宮前石山線の拡幅工事について

質問趣旨

村道宮前石山線の拡幅工事の計画があったと聞くが、いまだに工事が着工されていない。

渡邊 拡幅工事の計画では用地買収も一部済んでいたと聞いた。計画から現在までの経緯を伺う。

産業建設部長 村道宮前石山線の未改良区間を整備し安全が確保された通学路とするため、平成6年度から8年度にかけて用地買収を行った。しかし、擁壁等により工事費が高額になることや買収に至らない用地が一部あったことから計画が先送りとなった。その後、平

成19年度から22年度にかけて村道星内西庵線と宮前地藏面線の歩道付き道路が整備され、通学路の安全が確保されたことから、事業の実施が見送られて現在に至っている。

渡邊 買収した用地の現状と今後の見通しは。

産業建設部長 隣接耕作者により草刈り等の管理がされている。今後は沿線の土地利用状況等を見ながら検討したい。

渡邊 買収された土地は荒れるばかりで、道路も雑草が生い茂っている。通行に支障のない維持管理を求める。

産業建設部長 十分に現状を見ながら進めていきたい。

渡邊 計画が見送りになった時点で地権者への説明が必要だったのではないか。

産業建設部長 事業見



健康長寿をめざして（よつばサロン）



通行に支障のない維持管理を求める

送り時に何らかの説明が必要だったと考えている。今後このような状況の際には速やかな説明に努めたい。

渡邊 各部署で事務引き継ぎの再確認をする必要があるのではないか。

総務部長 引き継ぎは、必ず上司の立ち会いの下で行っている。漏れのないよう今後も徹底していきたい。

斎藤 信一 議員



大山幼稚園の園庭について

質問趣旨

幼稚園3年保育に伴う園舎増築により狭くなった園庭や撤去された遊具などについて伺う。

斎藤 幼稚園3年保育に向けた保護者説明会で、次年度には遊具の再設置や狭くなった園庭の拡張を行うとの説明があったが、現在の状況を伺う。

教育長 一時撤去した遊具は8月に契約し、10月末には設置工事が完了する。園庭拡張の計画は、工事が高額になることから当面実施しない。

斎藤 拡張工事を実施しないと判断した経緯は。

村長 園庭を拡張しなければならぬと考えていたが、電柱の移設などにより工費が多額になる見込みとなった。また幼稚園北側の土地取得で新たな支出も生じた。屋外での活動は大山小の校庭でできるの

ので、支障はないと考えており、安全管理をしながら校庭を



園庭拡張が予定されていた場所

利用していただければと考えている。

斎藤 園庭東側の舗装の斜線部分をフェンスで囲い、高低差を利用した園庭にしてはとの意見も出てくる。考えを伺う。

村長 フラットに広げたいと考えている。すぐにはできないが、簡易的な方法で安くできないか検討している。

斎藤 幼稚園北側に新設された駐車場が使用できないのはなぜか。



送迎による朝の渋滞

教育部長 行事がある場合や大型バスが駐車する場合などは使用している。通常は、幼稚園西側駐車場のみで支障はないと考えており、ゴミの散乱や夜間の防犯の面から利用を制限している。

斎藤 西側駐車場の入り口は通学路を横切るため危険である。入り口は狭く、送迎時には両方の車線から車が出入りし渋滞も発生している。改善策は検討しているか。

教育長 北側駐車場を有効に活用し、それらが緩和されるよう検討していく。

子ども・子育て会議について

質問趣旨

「特色ある子育て支援策」を掲げる大玉村だからこそ、もっと内容を充実させるべきと考える。

斎藤 出席者からは「計画策定を委託された業者の話を聞くだけだった」や「資料が膨大で、質問しようにも難しい」等の感想を聞いたが、実際に有意義な議論を行っているのか伺う。

住民福祉部長 ホームページの更新や会議録の公開を行い、一般公募も継続していく。

斎藤 この会議のように子育て世代の意見を聞く場をどのように考えているのか伺う。

村長 すべての会議において委員の皆様には時間を作って出席していただいている。会議の目的をしっかりと議論して行政が考える施策と住民の皆さんが求めるものにズレが生じないよう、ぜひ発言し提言していただきたいと申し上げている。

若し世代の方は行政や教育委員会で見聞が異なるが、改めて若い人たちと意見を交換できるような場を設けていきたい。

か。

大玉村保育所民営化計画を質す

質問趣旨

大玉村社会福祉協議会に移管する保育所民営化計画について、透明性のある民営化と、保育環境の充実を願う。



押山 大玉村の保育理念、民営化に向けた考え方を伺う。

住民福祉部長 児童の健康、安全、指導管理について十分留意し、安定した情緒と身体の発達を促す保育環境を整備することと、保護者との連携を密にし、相互の理解と協力を図り、個々の児童に適切な保育に努めることを理念としている。

民営化は、「公私連携型保育所」※の運営によるメリットが多いとの判断から民営化を進めているところである。

押山 保育所を運営する予定の社会福祉協議会と役場は住民の福祉に関しては一体という考えである。保育所を受け入れるにあたっての基盤整備や社会福祉協議会の体制強化は必要になってくると感じている。民営化後は議会の監視から離れるが、社会福祉協議会の運営の参画に議会が関わることは制度上、可能か伺う。

総務部長 地方自治法

上、現状では役員となることができない。ただし、最終的には司法の判断に委ねられるとしか申し上げられない。

村長 村からの補助金が社会福祉協議会に出しており、この補助金に対して監査委員が監査することができ、監査委員には議会選出の委員もいるので、間接的であるが議会の意見も反映できるのではと考えている。また議会推薦の評議員が2名いることから、十分に議会の意思を反映できると考えている。

押山 「公私連携型保育所制度」による民営化のメリットを伺う。

住民福祉部長 公私連携型であるので移管をしてからも村が関与できる点である。保育所運営費は、村直営の場合では国や

県からの補助金がなかったが、民営化により国から2分の1、県と村からそれぞれ4分の1の補助を受けることが可能となる。さらに保育士等を正職員として雇用することで待遇改善が図られ、雇用の安定や保育士の意欲向上、ひいては保育の質の向上につながると考えている。

県からの補助金がなかったが、民営化により国から2分の1、県と村からそれぞれ4分の1の補助を受けることが可能となる。さらに保育士等を正職員として雇用することで待遇改善が図られ、雇用の安定や保育士の意欲向上、ひいては保育の質の向上につながると考えている。



4月から社会福祉協議会に移管が予定される保育所



保育環境の充実が期待される民営化

押山 保育所職員の処遇はどうなるのか。また保育所長の職務権限は。

住民福祉部長 現職員のうち、正職員は村からの派遣を予定している。会計年度任用職員は社会福祉協議会側で採用になると想定している。所長は現場の最高責任者である。

押山 幼児の虐待問題等の対応は。

住民福祉部長 虐待等の問題は通告義務がある。虐待の兆候が見られた場合は村の福祉関係部署が直ちに動く体制となっている。

※公私連携型保育所

児童福祉法第56条の8に規定される保育所の運営に関する仕組み。公私連携型法人として市町村から指定を受けた民間法人が市町村と「協定」を結び、市町村の一定の関与を残しつつ運営する方法。協定に基づき、保育所運営に必要な土地や建物等の無償貸与等や人的配置も含め連携し保育事業を行う。

須藤軍蔵議員



財政の見通しと村政の基本姿勢を伺う

質問趣旨

コロナ禍は終息せず県内でも感染が広がっている状況下では、住民サービスの確保が大切だ。

須藤

新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞で、村の税収減は必至である。来年度の税収の見通しを伺う。

総務部長

新型コロナウイルス

ウィルス感染症が拡大して6カ月の状況の中、村民税や固定資産税の課税が1月1日現在で行われることなどから、現時点での影響を的確に判断する情報が乏しい状況にある。今後、国内外や県内の経済状況、加えて村民の労働環境や収入状況、事業者の景気状況などを総合的に判断して、来年度の村税見込みを推計していきたい。

須藤

令和2年度は各種積立金の取り崩しがあったが、基金の現状はどうか。

総務部長

9月補正予

算の時点で財政調整基金が8億2600万円、減債基金が1億1000万円、災害対策基金が6000万円である。本年度の各種補正予算において基金の取り崩しを行ってきたが、

ほとんどが新型コロナウイルス感染症対策への充当である。なお、昨年度に基金名称を改正した公

共施設整備基金は5億7800万円である。

須藤

今年度は各種計画策定が進められている。新型コロナウイルス感染症や財政状況も踏まえて、事業の現状や今後の進め方を伺う。

総務部長

第5次総合

振興計画※などを作成している。新型コロナウイルス感染症により、聞き取り調査等の着手が遅れた経過があるが、年度内の策定完了に向けて事務事業を進めている。今後、新しい生活様式に沿った感染症対策を徹底しながら、次年度に向けた取り組みを進めていく考えである。

須藤

村税の減収は住民サービスの低下に直結するのではないかと。住民の暮らし、健康や教育をしっかりと守る立場である村は大変な状況下ではあるが堅持していただきたい。今後の村政執行の基本姿勢を村長に伺う。

村長

コロナ禍にあっても行政は止まることなく、住民サービスの後退も許されないと考えている。今回のコロナ禍は非常時の災害と捉えており、基金を利用した財政出動は今がその時と感じている。高齢者支援や子

育て支援などをしっかりと進めていきたい。だが、新型コロナウイルス感染症が2年3年と続いた場合は、住民の皆様にも我慢いただくことも可能性としてある。理解をいただきながら村政を進めていきたい。

※第5次大玉村総合振興計画

村の最上位計画であり、令和3年度から10年間のむらづくりの基本的方向と具体的施策を定める。



コロナ禍でも前向きに暮らし続けるために

大玉村保育所の民間運営

質問趣旨

大玉村保育所が民間運営に移行する。今後の保育所の方向性について伺う。



子どもは村の宝

武田 長期間の休校や夏休みの短縮など、子どもたちの心と体と与える影響は大きいと思う。授業時間の確保だけでなく、子どもたちにとつて大切なことは何か。

村長 町村会として国や県に強く要望している。

住民福祉部長 住民の暮らしに関わる方のPCR検査が実施できれば効果的だと思う。安達広域管内で協議したい。

武田 新型コロナウイルス感染症から私たちの暮らしや子どもたちの教育を守るために必要なことは何か。

武田 新型コロナウイルス感染症の拡大を止めるには、PCR検査の充実が重要だと思う。特に医療や介護、保育や教育、行政職員の感染は影響が大きいと思う。これらの方が安達地方発熱外来で定期的にPCR検査を行うことはできないか。また、国・県に対し、財政支援や検査体制の支援など要望しているのか伺う。

新型コロナウイルスから暮らしを守る対策を

質問趣旨

新型コロナウイルス感染症から私たちの暮らしや子どもたちの教育を守るために必要なことは何か。



武田悦子 議員

武田 大玉村保育所の運営を社会福祉協議会へ移すとの説明があったが、現在の保育所が抱える課題は何か。

住民福祉部長 共働きの増加に伴い保育需要が増加している。特にゼロ歳児の需要が増加傾向にあり、これらに対応するため保育士の安定的な確保や保育室の拡充などの課題がある。また財源確保も課題である。

武田 社会福祉協議会へ移すメリットを伺う。

住民福祉部長 大玉村の地域福祉の核となる社会福祉協議会は村の福祉部門事業の多くを担っている団体であり、実務における安心感があることもメリットと考えている。

武田 保育所が民間に移管となれば不安に感じる人もいると思う。現在の保育内容は変わらないのか。また保育所を核とした子育て支援に変わりはしないのか。

村長 保育の質が落ちるということであれば、移管自体があり得ない。第2子以降の保育料の無料化や村外保育施設利用の助成などの制度は一切変えるつもりはない。村の大切な宝の子どもたちをしっかりと育んでいきたい。

く、今、子どもたちにとって大切なことは何か。

教育長 学校は教師や子どもたちの学びの場である。学びの保障と子どもたちが習得すべき中身を大事にすることが大切と考えている。

武田 3密を解消し、一人一人の個性に沿った支援を行うためにも少人数学級の実現が求められる。実現のために取り組んでいるか。

武田 地域のサロンでの感染対策として非接触型体温計や消毒薬など備品の支援はできないか。

教育長 少人数学級の

住民福祉部長 社会福祉協議会と協議しながら必要な備品などは村で購入し提供することを検討したい。



感染症対策の徹底を

佐原佐百合 議員



村が目指す自主防災組織とは

質問趣旨

自然災害に備え、自助・共助の基盤となる自主防災組織の設立などの地域防災力の強化について問う。

佐原 設立までの支援をどのように行うのか。

住民福祉部長 地域の

要望に応じて役場の防災担当や消防団、行政支援員、消防経験者等に協力をいただきながら支援したいと考えている。ただ、必要な地区になかなかできないようであれば設立を促すことも必要と考えている。村公式ホームページや広報紙等でも周知したい。

佐原 設立後の行政の役割や具体的な支援策は。

住民福祉部長

財政的な支援に加え、村職員を割り当てた行政支援員による事務的な作業や情報提供などの支援を考えている。

佐原 本村

の自主防災組織が目指すところを伺う。

村長 大

きな災害が起きた時、行政職員が各地区に関わることは



地区防災を学ぶ講演会（8月2日）

困難である。地域での助け合いの組織が中心となり、災害時にどう逃げるか、どう避難するか、一人暮らし高齢者や老々世帯の方々を避難所へ連れて行くかなどを担っていただきたい。日頃から活動していただき、高齢者を地域でしっかりと見守るところまで期待したい。村でも住民任せにしないで、地域の実情に合わせた地区防災計画の原案を一緒に作成し、できるだけ早く全村に組織ができるよう対応していきたい。

誰にでもわかる「予算説明書」の作成を

質問趣旨

村政への理解と関心を持っていただくために、事業や予算をより具体的に示す必要があると考える。

佐原 村民の皆さんに、年度毎の事業や予算をどのように伝えているか。

総務部長 広報「おお

たま」を活用している。4月号では、村政執行の基本方針や重点事務事業名と予算額をわかりやすく簡潔にまとめている。5月号では当初予算の歳入と歳出の概要、11月号は前年度決算の概要と財政指数など専門的な数値の公表と用語説明の掲載をしている。

佐原 予算を村民の皆

さんにわかりやすく報告することで見える化が進み、村政への理解が深まるのではないかと。各課が議会に提出する資料を活用してはどうか。

総務部長 令和3年度

当初予算から広報紙に新たな紙面を加え、今までもよりみかみ砕いた表現

で、さらに分かりやすく説明したいと考えている。各課が作成する説明資料が活用できるか検討していきたい。



県北地方の自治体で公開している予算説明書

他に次の質問がありました。
・大玉村保育所の民営化について

循環型農業を堆肥センターで考える

質問趣旨

本村の農業を考えたとき、堆肥センターの持つ役割は大変重要である。今後の運用について伺う。



十分に発酵した堆肥

菊地 堆肥センターの年間の利用状況と生産される堆肥について伺う。

産業課長 昨年度は原材料となる牛糞の搬入者が5名、豚糞の搬入者が2名であり、混合資材の投入量は糞尿2455立方メートルとなっている。もみ殻搬入者はのべ56名で、投入量は844立方メートルである。堆肥の購入者はのべ481名で、販売量は2559立方メートルである。

菊地 施設の維持に要する経費はどのくらいか。

産業課長 令和元年度は電気料金が約77万円、燃料費が約116万円となった。また施設の老朽

化に伴い毎年修繕を行っているが、施設修繕料が約324万円、備品修繕料が約166万円となった。人件費は約507万円となっている。

菊地 堆肥センターではどのような製造方法を取り入れているのか伺う。

産業建設部長 乳用牛や肉用牛及び豚の排泄物をもみ殻と混合し、種堆肥とあわせ、底から天地返しをするスクープ方式で攪拌を行っている。微生物発酵による堆積腐熟後、約30日間養生し、袋詰めで出荷している。

菊地 堆肥センターの堆肥を使用することは、大玉村産米ブランド化のアピールポイントになる

と思う。考えを伺う。

村長 米のブランド化は福島大学食農学類と連携し進めている。今年2年目となるので、大学の指導を受けながら来年の作付けを考えることになる。堆肥を使用した有機農業を進めていきたい。

菊地 循環型農業を考

えたとき、これからの堆肥センターの在り方について伺う。

村長 畜産を振興していく中で、堆肥センターの堆肥を活用する循環型の農業形態を継続していきたいと考えている。機械も古くなっているもので、全面的に更新するの

か今後の検討は不可欠であると考えている。当面は施設等の修繕をしながら循環型農業を進めていきたい。

集中豪雨の被害と河川の管理状況は

質問趣旨

集中豪雨による土砂災害が多発している。その対応を問う。

菊地 この5年間、水害により復旧工事をした事例は何件あるか。

建設課長 平成28年度は農業用水路などの農業用施設9カ所、道路施設または河川施設などの土木施設17カ所であった。平成29年度は農業用施設9カ所、土木施設4カ所であった。令和元年度は農業用施設7カ所、土木施設64カ所であった。

菊地 今年7月にも集中豪雨が発生し、杉田川の水位が急激に上昇しているのを確認した。川底

に堆積物が見られるが、今後の村の対応は。

産業建設部長 杉田川や百日川、安達太良川は1級河川であり、県の管

理となっている。村では河床払いを毎年県に要望しており、県は計画的に河床払いを実施している状況である。



堆積土砂撤去が完了した百日川

地域課題に取り組む

議会研修・議員勉強会

議会の委員会研修は、今年度は実施しないことを決定しました。コロナ禍の今だからこそ、議会全体で地域の課題を共有し、研究を深め、課題解決に取り組んでいます。

12月に議会活性化検討会を立ち上げ、オール議会で村民の声を聴く会や議員勉強会の検討をしてきました。これまで取り組んだ研修などは次のとおりです。

- 1月21日(火) 安達地方仮設焼却施設視察
- 1月30日(木) 福島圏域広域連携セミナー
- 2月21日(金) 区長OB会新春の集い参加
- 3月19日(木) 福祉センターさくら屋内運動場
改修工事現場視察
- 7月21日(火) 小高倉地区環境調査
- 8月28日(金) 保育所民営化に関する調査
- 9月18日(金) 地方自治研究交流セミナー(第1回)
- 10月8日(木) 福島県町村議会議員研修会
- 10月20日(火) 地方自治研究交流セミナー(第2回)

保育所民営化に関する調査

8月28日(金) 鏡石町

「公私連携型保育所」の先進地である鏡石町で、保育所民営化の経緯や現状の調査を全議員で行いました。

民営化のメリットや保護者が継続し安心して子どもを預けられるようにどう対応したかなどを伺いました。

福島県町村議会議長会と大玉村議会の主催で、福島大学の食農学類や行政政策学類の教授から講演をいただく「地方自治研究交流セミナー」を全3回の日程で開催します。9月18日と10月20日に議場で行われた内容は次のとおりです。

震災を機に転換期を迎えた福島の農業

地方自治研究交流セミナー第1回 9月18日(金)
福島大学食農学類 小山良太教授

震災後に食農学類の立ち上げに奔走されたのが小山良太教授です。

福島県ほど、米、野菜、果樹、畜産のバランスがとれて品目数の豊富な県はなく、「品揃え型の総合産地」と小山教授は力説されました。福島県の農産物の動向を見ると、野菜や果樹は震災前の価格に戻りつつあるが、畜産や米は市場構造自体が変化しています。米は小売販売用家庭用米(産地表示)から業務用米(国産表示)に変化していて、福島県産米が国産米と表示され、産地名が表示されていない現

状に触れました。福島県の農産物の評価は後発産地の新規市場開拓と類似した構造であり、今後縮小される米の全袋検査などの放射能汚染対策予算を産地形成の事業に充てるよう働きかけていくべきであると提言されました。



小山良太教授

大玉村の水田土壌と米の品質・食味の特徴

地方自治研究交流セミナー第2回 10月20日(火)
福島大学食農学類 新田洋司教授

大玉村産米のブランド化に向けて米の品質や食味の特徴を昨年度から研究していただいているのが新田洋司教授です。

村内9カ所のコシヒカリを分析した結果、玄米・精米の食味関連形質では、食味を左右するアミロースやタンパク質の含有率が低く、高食味値であり、炊飯米微細構造的特徴は、「ねばりの強い良食味米」、あるいは、近年のブランド化に認められる「ほどよいかたさを有する良食味米」と判断されると説明いただきました。今後もデータの集積が必要であり、安定的な収量と高品質米の確保がブランド化に必要であると助言をいただきました。講演では終始、大玉村産米を高く評価し絶賛され、今後のブランド化に向けての弾みとなりました。



意見交換



新田洋司教授

目指せ!! 健康長寿日本一おおたま

「第32回ふくしま駅伝」に向けて練習に励む大玉村チームのアスリートの皆さんの「健康の秘訣」や「走り続ける熱い思い」を伺いました。



武田智道コーチ 伊藤秋義監督 角田俊哉コーチ

皆さんにとって「健康」とは?

伊藤監督 走ることが長生きのツールかな。健康診断でひっかかったので、毎日は無理だけど週2・3回は走っています。ビールを隠れて飲んでいてはダメですね。(笑)

武田コーチ 家庭を持ってから意識し始めました。体を動かすのが好きなので、毎日の運動は欠かせません。

角田コーチ 健康は、自分のやりたいことができるための必要な要素であり、大切な土台です。健康だとお酒の味がわかるんですよ。(笑)

走り続ける原動力は?

伊藤監督 私の走る姿を見て、子どもたちも走るのが好きになったと思います。子どもが幼稚園の頃から同じ大会に参加していました。走れる村内の環境や仲間が良かったから続けていると思います。

武田コーチ 自分は、走ることに以外に水泳やミニバスケットをしています。4人の子どもたちに大人になっても続けられるものを見つけて欲しいので、自分がわかることを教えたいし、きっかけを与えたいと思います。何でも一緒にやっています。

角田コーチ 子どもと一緒に走ることがかな。走る動きは単純ですが、自分の経験から教えられることもあります。息子の走る姿は自分に似ているので子どもを通して自分の走りが理解できます。まだ理想の走りには至っていないんですけどね。

今後の目標をお聞かせください。

伊藤監督 正直、走るものがつらい時があります。でも、一緒に練習して走る姿を見せることで子どもたちに「自分にもできる」と思ってもらいたい。駅伝に出られなくなっても一緒に走り続けられたらいいと思っています。

武田コーチ 村内の子どもたちと走ることです。「走るのが大好きだ」と思ってもらいたいし、大人になっても走ってもらいたい。言うだけではダメ、子どもたちと一緒に走ることに意味があるんです。

角田コーチ メニューを考えて走っています。計画を立てるだけでなく、実践し反省を繰り返すこと、積み重ねていくことで成長することができそうです。子どもたちにも伝えていきたいと思っています。

「ふくしま駅伝」は、11月15日(日)10時に郡山ヒロセ開成山陸上競技場をスタートし、福島県庁前までの9区間で競われます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、沿道での声援の自粛が求められています。ご家庭のラジオやテレビで応援をお願いします。



火曜日午後7時からの練習(9月29日)

編集後記

秋、大玉村は黄金色に染まる。名倉山の頂上から広がるパノラマは美しい。

この季節は、おいしい農産物に顔がほころぶ。しかし、新型コロナウイルス感染症は農産物をはじめ地域経済に大きな影響を及ぼしている。今後も継続した支援が求められる。

毎日の暮らしの中では、新しい生活様式やソーシャルディスタンスが求められている。議会は皆さんとの距離を広げることなく、より身近な活動に取り組んでいきたい。

(武田 悦子)

議会広報編集特別委員会

委員長 佐原百合
副委員長 佐藤信一
委員 渡邊啓子
委員 菊地厚徳
委員 武田悦子
委員 山田義則